

第65回 地域まちづくり推進委員会（令和8年7月7日）

議事：地域まちづくりの取組みの推進状況について

令和5年度推進状況報告書・評価書

まちづくりの きっかけ づくりの支援	・ 広報・情報発信の強化 ・ 相談のハードルを下げる仕組み、相談先の明確化、まちルコの名称・体制の再検討、区・他局との連携強化。中間支援組織との連携	1
まちづくり 初動期の支援	・ 「まずはやってみる」実験的な活動や施設整備以外の多様な活動に対する活動助成、やりたいことがスムーズにできる仕組み	2
まちづくり 活動期の支援	・ 活動の変化に対応した支援の必要性 ・ コーディネーターのあり方、役割分担	
まちづくり 成熟期の支援	・ デザイン賞の認知度向上・広報改善 ・ 地域まちづくりに関するプロモーション	

1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み

2 支援制度の一部改善に対する検討

1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み（周年事業による試行）

20周年事業 記念トークイベント R7.12.21

まちづくり実践者5名が登壇
市民・専門家等 約100名が参加
条例制定以降を振り返り、
今後の地域まちづくりを議論



▲これからの地域
まちづくりの視点
が6つ示されました。
(資料①)

まち普請 整備グループ交流会 R7.10.5

整備した団体の交流会
9団体が参加
活動のヒントや課題を共有



▲二つの交流会を通じて、
団体の顔の見える関係
が生まれました。

横浜・人・まち・デザイン賞

<活動団体交流会> R7.12.15

2次選考に進んだ団体の交流会



<表彰式> R8.5.28



市長からの授与により ▲
認知度向上に繋がりました。

1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み（周年事業による試行）

ミニヨコハマシティ2025



ミニシティ・プラス

R7.11.2-3

都筑区民文化センターボッシュ
ホール

こどもが主役のまち体験イベント
を開催

ヨコハマ小麦部



I Love つづき

R7.11.22（種まき）

R7.12.3（麦踏）

ヨコハマ小麦部ネクストステージ畑

地域の人々とともに独自の畑を拠点
に小麦の栽培から収穫・活用までを
通じた学びと交流の場づくりを推進

とーく&トーク2025 中間支援の今後のあり方について

とーく&トーク2026
地域まちづくりにおける
中間支援の今後のあり方を考える！

日時 2026年2月8日（日）13:30～16:30
場所 市民協働推進センター スペース A・B（横浜市庁舎1階）
+ オンライン（Zoom）

第1部 基調講演
法政大学法学部政治学科教授 杉崎 和久氏

第2部 パネルディスカッション

内海 宏 荒井 詩穂那 鈴木 敏文 大嶽 洋一

よこはま地域
まちづくり

横浜プランナーズネットワーク

R8.2.8

横浜市役所 1 階 スペースA・B

支援団体等のあり方を再考、新た
な促進策などを提案！

▲ まちづくり支援団体の取組を後援。周年事業として広報を実施。

1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み（周年事業による試行）

インスタグラム（R7.10.1～）

あなたの地域まちづくり×ロゴ（R8.5.20～）

<実施状況>

投稿数	34
フォロワー	450（～R8.7.7）
閲覧数	6,559（R8.3.22～R8.6.22）

「地域まちづくりだと考えている活動」を対象に、イベントのチラシなどに地域まちづくりロゴを利用すると、市のインスタグラムとHPで広報する取組。



チラシ・募集要項

<インスタで紹介した活動>

- (20周年)

 - Co-coya
 - 759VILLAGE
 - 森ノオト
 - ミニシティ・プラス
 - I Love つづき
- (まち普請)

 - あおぞら広場
 - いの池 -地域の力で再生-
 - こんちは -レモンと縁側の庭-
 - 二つ台みーとみーと
 - パレット境木ベース
- (その他)

 - おかまち
- (人まちデザイン賞)

 - 関内外OPEN!
 - 森ラボ
 - Aozora Factory
 - 舞岡・やとひと未来
 - ヨコハマ海洋市民大学
 - 全かなスリッパ卓球選手権大会
 - ストリートファニチャー
 - デザインコンペティション
 - 18区井プロジェクト
 - 「みんなのリビング」を目指して
 - 竹山団地プロジェクト
 - すくすくかめっ子

<エントリー 11件>



横浜の都市デザイン「7つの取組み姿勢」と連携資料②



エントリー団体をマップで可視化

（7月7日現在）

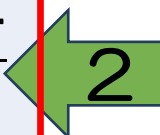
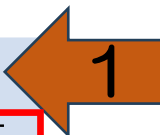
1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み

周年事業を通じて見えてきたこと

- 地域まちづくり推進事業として継続を検討する必要がある
- ▶ 実績のある団体の交流会を実施することで学び合いによる取組の充実を図り、交わされた意見をもとに地域まちづくりの課題や可能性を把握
- ▶ 行政だけでは難しい取組を進めるためのまちづくり支援団体との連携
- ▶ 地域まちづくりの裾野を広げる広報（インスタ・ロゴ）

令和5年度推進状況報告書・評価書

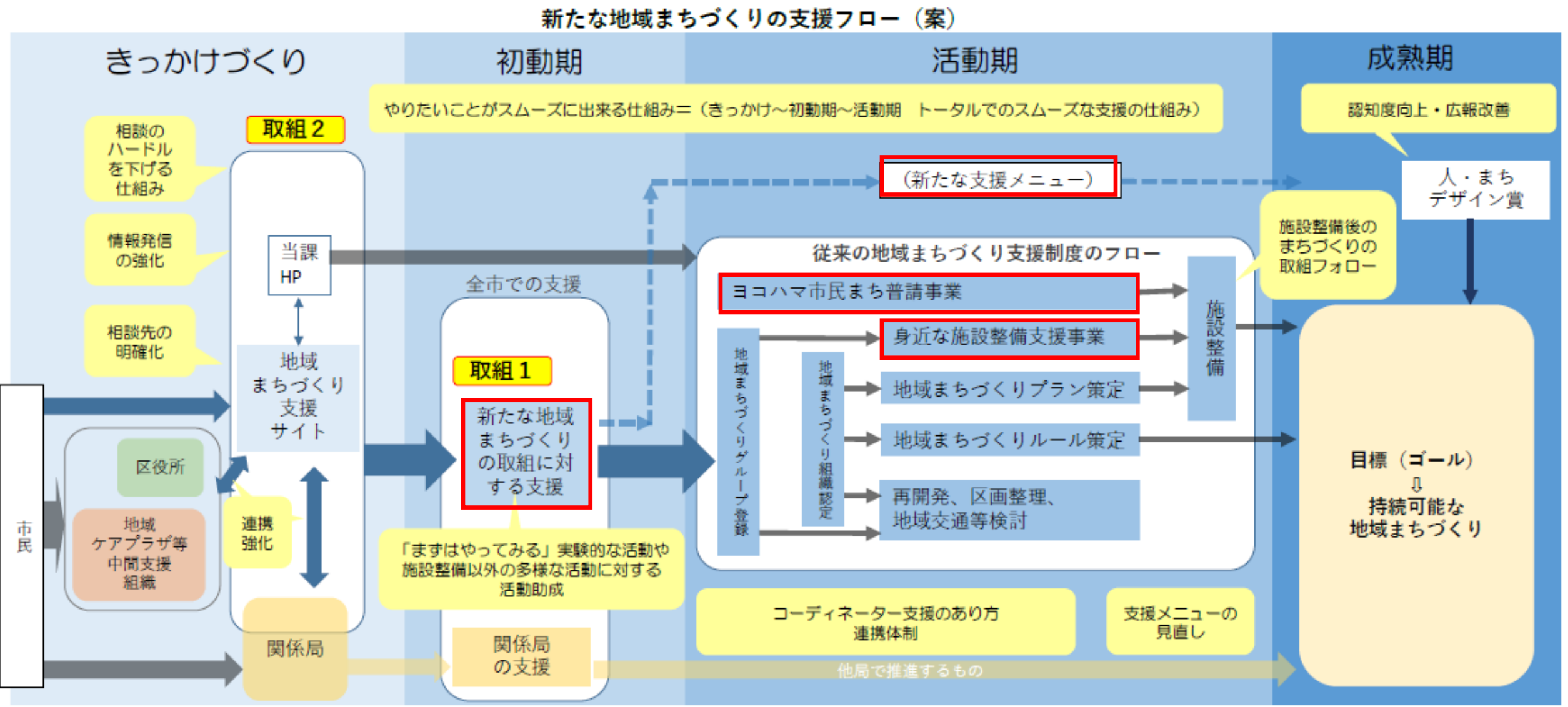
まちづくりの きっかけ づくりの支援	・ 広報・情報発信の強化 ・ 相談のハードルを下げる仕組み、相談先の明確化、まちルコの名称・体制の再検討、区・他局との連携強化。中間支援組織との連携
まちづくり 初動期の支援	・ 「まずはやってみる」実験的な活動 や施設整備以外の多様な活動 に対する活動助成、やりたいことがスムーズにできる仕組み
まちづくり 活動期の支援	・ 活動の変化に対応した支援の必要性 ・ コーディネーターのあり方、役割分担
まちづくり 成熟期の支援	・ デザイン賞の認知度向上・広報改善 ・ 地域まちづくりに関するプロモーション



1 地域まちづくりの裾野を広げる取組み

2 支援制度の一部改善に対する検討

2 支援制度の一部改善に対する検討



2 支援制度の一部改善に対する検討

ヨコハマ市民まち普請事業

- 市民主体でハード整備を公開コンテストと伴走支援で実現
- 全国でも珍しい先進的な取組として高く評価
- 500万円のハード整備補助

身近な施設整備支援事業

- 令和5年度に制度化
- 3年間で5件を整備
- 地域福祉保健計画に位置付け
- 単年度のスピーディーな支援
- 100万のハード整備補助

課題

- 建設コスト、場所探し、仲間探しのハードルが高い
- よりチャレンジしやすいしくみが必要

- 対象範囲を拡大できれば、より利用しやすい事業となる可能性

新たな支援メニュー

- 相談窓口の新設
- 初動期からの伴走支援の強化、ハードルへの助言
- 裾野を拡大するための広報の強化
- 支援額の見直し

今後の取組み

周年事業により

- ▶ まちづくりセミナーの実施

まち普請の整備事例やコーディネーターが登壇し、まちづくりの一步目を踏み出すきっかけとなる講座を実施

- ▶ まちづくり講演会の実施

若手まちづくり実践者によるトークイベント

多様な主体の意見徴収

新たな支援メニューに反映